

|   |  |         |          |
|---|--|---------|----------|
| 1. 科目名(単位数)   | 病児保育学特論 (2単位)  | 3. 科目番号 | SJMP5322 |
| 2. 授業担当教員   | 佐野 葉子・横田 俊平  |         |          |
| 4. 授業形態   | 講義および文献講読、討論   | 5. 開講学期 | 秋期       |
| 6. 履修条件・他科目との関係   | 「小児保健特論」を履修しておくこと  |         |          |
| 7. 講義概要   | 子どもが病気になって病院に入院したとき、健常児でも障害を持っている子どもでも一人で寂しいおもいをしている。子どもには医師や看護師による病気の治療やケアのほか、保育士や臨床心理士などの職種の人々による「あそび」などを取り入れたトータル・ケアが必要である。それによって、子どもたちに精神的な安らぎを与えることができる。わが国では、病児・病後児保育事業が実施されている。病児保育は、当初、働く父母をサポートするためにスタートしたが、今日では、子育てをしている家庭への支援へと分化してきつつある。その考え方と方向性について理解することが求められている。                       |         |          |
| 8. 学習目標   | 1. 病児・病後児保育の必要性について説明することができるようになる。<br>2. 病児・病後児保育の歴史の変遷について解説することができるようになる。<br>3. 病児・病後児保育事業の類型化について説明することができるようになる。<br>4. 病児・病後児保育に必要な子どもの生理機能および心理学について説明することができるようになる。<br>5. 病児・病後児保育における保健管理および医療的対応について実践することができるようになる。<br>6. 病児・病後児保育における事故防止と安全教育について実践することができるようになる。                          |         |          |
| 9. アサシメント(宿題)及びレポート課題   | <b>宿題</b> ：毎回レポートテーマを伝えます。<br>レポートはA4、40字40行、10.5ポイント、2枚程度で作成して下さい。  |         |          |
| 10. 教科書・参考書・教材  | <b>【教科書】</b><br>『知のゆりかご 子どもの保健』株式会社 みらい 2025<br><b>【参考書】</b><br>1) 高野陽、西村重稀編著『病児・病後児保育 体調のよくない子どもの保育』北大路書房、2010<br>2) 内山聖監修、原寿郎、高橋孝雄、細井創編集『標準小児科学第8版』医学書院、2013<br>3) 梶谷喬、寺田喜平、小河昌子著『医療保育-ぜひ知っておきたい小児科知識』(改訂2版) 診断と治療社、2009<br>4) 高野陽、中原俊隆編『乳幼児保健活動マニュアル』文光堂、2007<br>5) 厚生統計協会編『国民衛生の動向』65(9) 2018/2019 |         |          |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法   | ○成績評価の規準<br>病児・病後児保育の歴史、制度、保健管理、事故防止について理解しているかをレポート課題や宿題で評価する。<br>○評定の方法<br>(通学課程)<br>レポート課題 50%<br>宿題 40%<br>受講態度 10%  |         |          |
| 12. 受講生へのメッセージ  | 病児・病後児保育事業がスタートし、全国的に多数の小児科医院や保育所がこの事業に参加してきている。<br>病児・病後児保育では、小児科臨床の知識及び心理学的知識のほか、「あそび」の遊具や遊び方の知識などを習得することが求められている。従って、これら知識を積極的に吸収する必要があるため、予習・復習を必ずしてほしい。   |         |          |
| 13. オフィスアワー   | 授業時に周知する   |         |          |
| 14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】   |  |         |          |
| 1～2. テーマ  | 病児保育の概要とその歴史の変遷  |         |          |
| <b>【学習の目標】</b> 病児保育ができた経緯を理解し、その歴史の変遷について解説することができるようになる。<br><b>【学習の内容】</b> 1. 病児保育の必要性を理解する。<br>2. 病児保育の歴史を学び、病児保育の今後の方向性について学ぶ。<br><b>【キーワード】</b> 病児保育、歴史の変遷、医療保育、Hospital Play Specialist(HPS)<br><b>【学習の課題】</b> 1) 病児保育の歴史の変遷について述べよ。<br>2) 病児保育、医療保育、Hospital Play Specialist(HPS)について解説せよ。<br><b>【参考文献】</b> 梶谷喬、寺田喜平、小河昌子著『医療保育-ぜひ知っておきたい小児科知識』(改訂2版) 診断と治療社、2009<br><b>【学習する上での留意点】</b> 病児・病後児保育、医療保育、Hospital Play Specialist(HPS)について、その内容を整理しておくことは大切である。 |  |         |          |
| 3. テーマ  | 病児・病後児保育事業の類型化とその概要  |         |          |
| <b>【学習の目標】</b> 病児・病後児保育事業の類型化について説明することができるようになる。<br><b>【学習の内容】</b> 病児・病後児保育事業の概要について学ぶ。<br><b>【キーワード】</b> 病児保育、病後児保育、類型化   |  |         |          |

|          |   |
|----------|---|
|          | <p><b>【学習の課題】</b> 1) 病児・病後児保育事業の概要について述べよ。<br/>2) 病児・病後児保育事業が取り扱う疾病の範囲について述べよ。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 病児・病後児保育事業では、病児対応型、病後児対応型、体調不良児対応型に分けられている。その意味について理解しておく必要がある。</p>   |
| 4～5. テーマ | 病児保育学の基礎(1) 子どもの身体の解剖・生理学   |
|          | <p><b>【学習の目標】</b> 人体の構造とその生理学的機能について解説することができるようになる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 病気になった子どもを観察する前に、健常児の身体の解剖・生理機能について学ぶ。</p> <p><b>【キーワード】</b> 子ども、人体の構造、生理機能</p> <p><b>【学習の課題】</b> 1) 人体の各種臓器の発生について述べよ。<br/>2) 代表的な臓器の生理学的機能について述べよ。</p> <p><b>【参考文献】</b> 真島英信著、松村幹郎改訂『人体生理学ノート』(改訂6版)金芳堂、2004</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 人間だれもが持っている臓器でありながら、知らないことが多い。医学的な用語が多く、難解であるので、繰り返し復習をして、少しでもその仕組みを理解してほしい。</p>   |
| 6. テーマ   | 病児保育学の基礎(2) こどもの発達心理学と病気への関与  |
|          | <p><b>【学習の目標】</b> 心理学的立場から、子どもの発達と病気との関連性を解説することができるようになる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 小児期区分ごとの心理学的発達と心身症について学ぶ。</p> <p><b>【キーワード】</b> 病児保育、発達心理学、小児期区分、心身症</p> <p><b>【学習の課題】</b> 1) 新生児・乳児期の発達心理学と病態について述べよ。<br/>2) 幼児期の発達心理学と病態について述べよ。<br/>3) 学童期の発達心理学と病態について述べよ。<br/>4) 青少年期の発達心理学と病態について述べよ。</p> <p><b>【参考文献】</b> 1) 河野友信編『思春期心身症の臨床』医薬ジャーナル社、2000<br/>2) 山内光哉『発達心理学 上』(第2版)ナカニシヤ出版、1998</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 小児期の各時期における心理学的発達と心身症に関する知識を習得することは必要である。</p> |
| 7. テーマ   | 病児保育学の基礎(3) こどもへの保育学[中間のまとめ]  |
|          | <p><b>【学習の目標】</b> 病気になった子どもにとって、親や養育者が看病に当たることが最も望ましい。しかし、それができない時にはどうすればよいか、その方策を解説することができるようになる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 病児を看護する場合、子どもにどのように接したらよいか? あらゆる場面について実践してみよう。</p> <p><b>【キーワード】</b> 病児保育、養育者、隔離、保育内容</p> <p><b>【学習の課題】</b> 1) 医療機関に入院した病児の保育について述べよ。<br/>2) 家庭における病児保育について述べよ。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 病児保育を行う場合、病気への対応が第1優先になるので、そのときの保育内容は工夫する必要がある。</p>   |
| 8. テーマ   | 病児保育学の実践(1) 保育看護の考え方  |
|          | <p><b>【学習の目標】</b> 保育看護の内容について説明することができるようになる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 保育看護とは、保育と看護とがお互いにその領域をひろげて病児に接して効果を十分に発揮したときの考え方である。どのような内容で行うことが理想であるか知識を深める。</p> <p><b>【キーワード】</b> 保育看護、病児保育、看護、保育、医療</p> <p><b>【学習の課題】</b> 子どもの各種病態に対して行う保育看護について述べよ。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 保育士が病児を保育するとき、徴候や症状をいち早く見つけ出す力をつけることが大切である。</p>  |
| 9. テーマ   | 病児保育学の実践(2) 病児保育における保育  |
|          | <p><b>【学習の目標】</b> 病児に対するあそび、絵本、音楽、などの保育内容について実践することができるようになる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 1) さまざまな病気になっている病児に対して、最も適した保育内容は何かについて学ぶ。<br/>2) 「あそび」、「絵本」、「音楽」を中心にした方法で、病児の癒しは可能かどうかについて学ぶ。</p> <p><b>【キーワード】</b> 病児、あそび、絵本、音楽、保育内容</p> <p><b>【学習の課題】</b> 1) 病気の程度と保育内容との関係について述べよ。<br/>2) 病児のストレスを解消する手段として、あそびなどの保育内容の重要性について述べよ。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 病児がおかれている環境や病気の種類によって、保育内容を変えなければならない。</p>  |
| 10. テーマ  | 病児保育学の実践(3) 病児保育における保健管理  |
|          | <p><b>【学習の目標】</b> 病児保育における保健管理がどのように行われているかを解説することができるようになる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 病児保育を行う上での「からだ」と「こころ」の健康状態のチェックにはどんなものがあるのかを学ぶ。</p> <p><b>【キーワード】</b> 病児保育、健康診査</p> <p><b>【学習の課題】</b> 1) 病児・病後児保育で扱う疾患と病態について述べよ。<br/>2) 病児・病後児保育での「からだ」のチェックポイントについて解説せよ。<br/>3) 病児・病後児保育での「こころ」のチェックポイントについて解説せよ。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 病児保育で扱う疾患は多数ある。それぞれの疾患の徴候・症状によって対応の違うことを学ぶ。</p>   |

|           |   |
|-----------|---|
| 11～12.テーマ | 代表的な症状や疾患への対応と実践（1）症状別にみた対応   |
|           | <p>【学習の目標】病児保育における保健管理がどのように行われているか、その実態を説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】病児保育を行う上での「からだ」と「こころ」の健康状態のチェックにはどんなものがあるのかを学ぶ。</p> <p>【キーワード】病児保育、健康診査</p> <p>【学習の課題】1）病児・病後児保育で扱う疾患と病態について述べよ。<br/>2）病児・病後児保育での「からだ」のチェックポイントについて解説せよ。<br/>3）病児・病後児保育での「こころ」のチェックポイントについて解説せよ。</p> <p>【学習する上での留意点】病児保育で扱う疾患は多数あり、それぞれの疾患の症状・徴候によって対応の違うことを学ぶ。</p>   |
| 13～14.テーマ | 代表的な症状や疾患への対応と実践（2）疾患別にみた対応   |
|           | <p>【学習の目標】病児が罹患している疾患の対応について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】1）病児保育では、感染性疾患を早期に発見し隔離することが求められている。そのためにも保育診断について学ぶ。2）感染性疾患の治療、ケアについての知識を深める。<br/>3）感染予防対策としての消毒・滅菌法について理解を深める。</p> <p>【キーワード】感染性疾患、非感染性疾患、消毒・滅菌法、治療</p> <p>【学習の課題】1）発疹性感染性疾患の診断とその対応について述べよ。<br/>2）感染性疾患に対する消毒・滅菌法について述べよ。<br/>3）感染予防のための予防接種について述べよ。</p> <p>【参考文献】1）五十嵐隆総編集、渡辺博専門編集『小児科臨床ピクシス4 予防接種』中山書店、2008<br/>2）国立大阪病院感染対策委員会編集『院内感染予防対策ハンドブック』南江堂、1999</p> <p>【学習する上での留意点】病児保育では、急性、慢性の病気を持っている子どもを扱っているので、それらの疾患に関する知識とその対応を習得することが求められている。</p> |
| 15. テー マ  | 「病児保育学」のまとめ   |
|           | <p>【学習の目標】病児・病後児保育では、急性、慢性の疾患が対象になっていて、その対応は異なっている。小児期では、感染性疾患がほとんどであるので、それに対するケアについて説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】病児保育は、当初両親をサポートするために実施されたが、今日では次第にかたちを変えて、各家庭での子育て支援へと方向性が変わってきている。病児保育のできる保育士が各家庭を訪ね、病児保育をすることが理想である。</p> <p>【学習する上での留意点】病児・病後児保育を行うとき、施設によっては病気の種類を分けている。このような取り扱いになっていることについて考えてみよう。</p>   |